

ITを活用した金融の高度化に関するワークショップについて

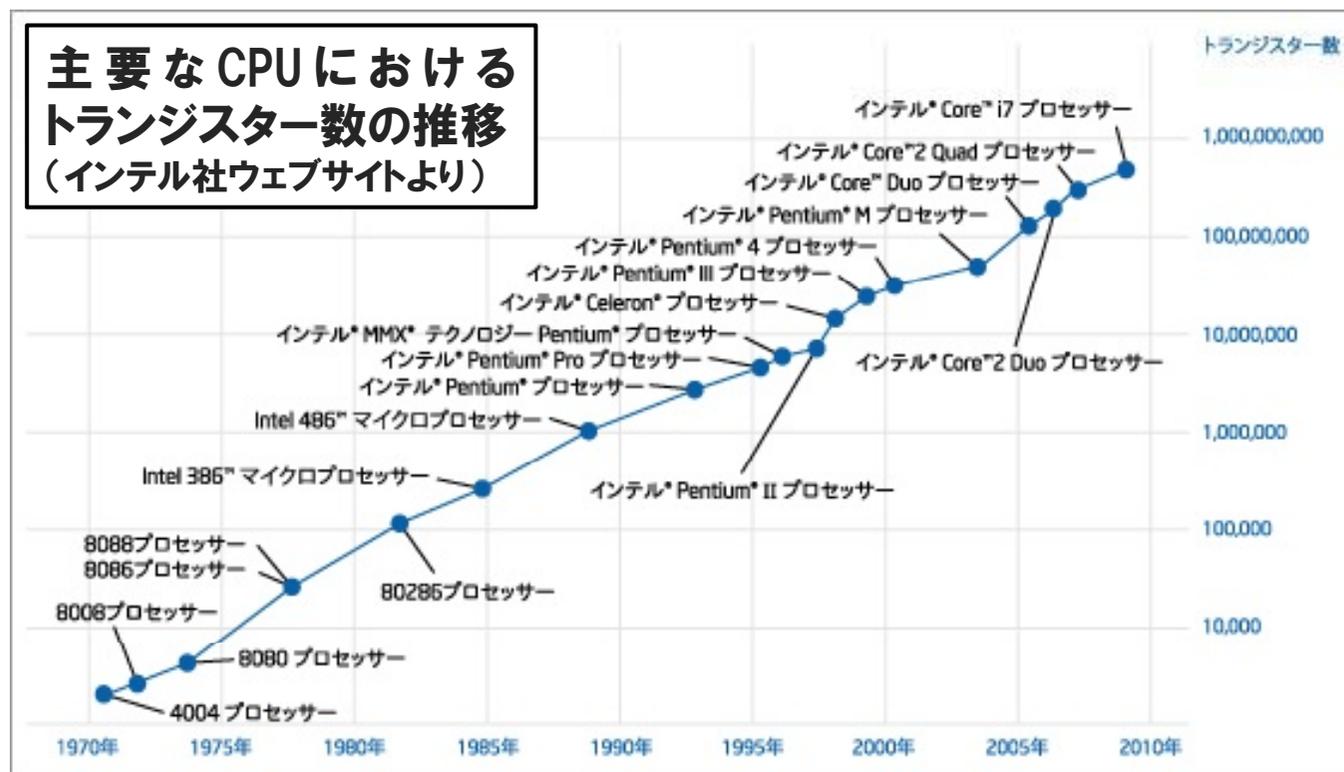
**日本銀行 金融機構局
金融高度化センター長
岩下直行**

1. 問題意識：金融機関にとってのITとは

- ① 金融業界は1970年代の第一次オンラインシステムの時代から、ITを重要な経営資源と位置付けてきた。
- ② しかし、金融機関の業務の現場では、本来ITが持つ力が十分に発揮されていないと指摘する声も根強い。
- ③ 堅牢性や高度な可用性を誇る金融機関のシステムは、半面、柔軟性が乏しく、維持管理や制度対応に多大なコストと時間を要する、といった指摘も。
- ④ 本来、ITは業務の現場における改革の手段として利用されるところ、しかし、金融機関のITは、むしろ改革を阻害する一因となっているのではないか、との声も。

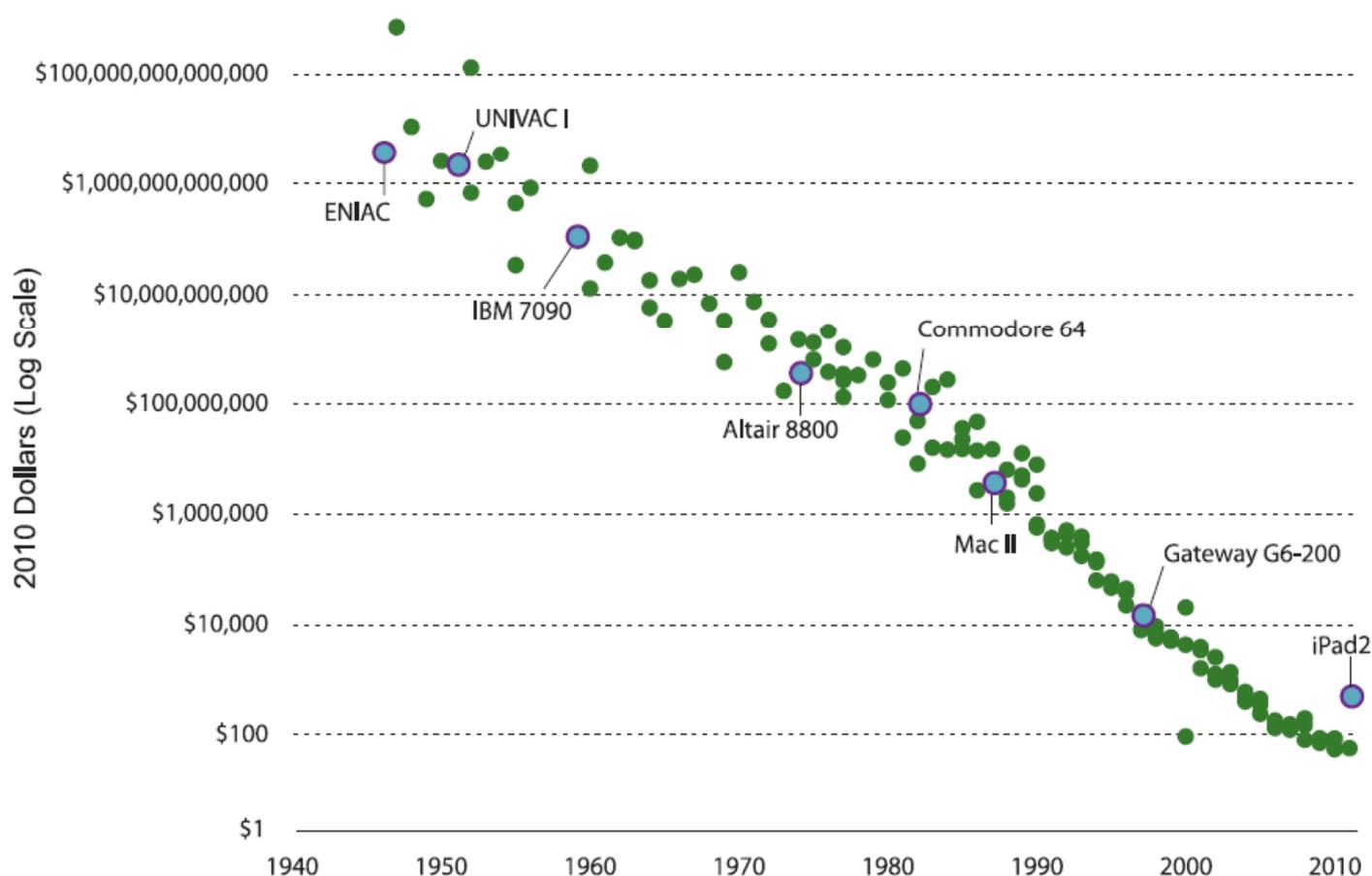
2. ムーアの法則（1/2）

ムーアの法則：「半導体の集積度は18か月で2倍になる」という経験則。この法則は数十年にわたって観察され、コンピュータのハードウェアのコスト・パフォーマンスは年を追うごとに改善している。



2. ムーアの法則 (2/2)

iPad2 と同等の計算能力を持つハードウェアのコストの推移



出典 : Michael Greenstone and Adam Looney, "A Dozen Economic Facts About Innovation," HAMILTON PROJECT POLICY MEMO, 2011.

3. ムーアの法則が働かない金融IT

金融機関のIT化の現場における実感としては、劇的なコストの低下も、性能の劇的な向上も起きていない。これは一体なぜか。

ひとつの答え：「金融業界が先にIT化に取り組み、それを完成させてしまったから」

1970-80年代 金融機関のIT化が他の業界に先行、その時代に一定の完成度を達成

1990年代以降 インターネットが爆発的に普及し、ハードウェアのコスト・パフォーマンスも向上

⇒ 「普通のIT」と「金融IT」との乖離を生じさせた。

4. 金融ITの変革を阻むもの

急速なITの進歩に置いてきぼりをくった状況が長く続くと、キャッチアップが難しくなる。

① 利用するシステム技術基盤、

② ITガバナンス体制、

③ 業務推進体制全体

が、古い ITシステムを前提としたものに固定化し、金融ITの変革を阻んでいるのでは。

5. 金融ITが取り組むべき課題

- ① 決済機能の高度化（24時間365日の稼働、金融EDI機能の実現）
- ② 取引チャネルのセキュリティ確保（インターネット・バンキング、ATMにおける不正防止、信頼向上）
- ③ 金融ビッグデータ活用と個人情報保護、プライバシー保護
- ④ マイナンバー法に基づく個人番号、法人番号の利用に向けての基盤整備

6. 経営課題を解決する金融ITを

これらの課題について、従来型のシステム開発の中でパッチワーク的に実現していこうとすると、膨大なコストと時間が必要となる。

システムの安定性、安全性を確保しつつも、金融機関の経営課題を効率的かつスピーディに解決する金融ITが必要。

その方向性を、これから開催する連続ワークショップで議論していきたい。

7. ワークショップの構成と進め方

第一回ワークショップ参加者(敬称略)

島田 直貴	株式会社 金融ビジネスアンドテクノロジー 代表
石黒 和彦	株式会社 セブン銀行 取締役 常務執行役員
上原 高志	株式会社 三菱東京UFJ銀行 法人企画部 企画グループ 次長
梶浦 敏範	株式会社 日立製作所 情報・通信システムグループ 上席研究員
加藤 毅	株式会社 横浜銀行 営業企画部 マーケティンググループ グループ長
兼子 邦彦	小島プレス工業株式会社 総務統括部 参事
川越 洋	株式会社 三井住友銀行 決済企画部 部長
三澤 敏幸	朝日信用金庫 理事 システム部長

日本銀行

決済機構局

金融研究所

金融機構局 (金融データ課、考査企画課、金融高度化センター)